

－市民が健康でいきいき輝く

神戸をめざして－



日本は、先進国の中でも屈指の長寿国であり、高い医療水準を実現していますが、一方で、医療を取り巻く環境は厳しさを増し、医師不足や医師の偏在、救急医療体制の再構築など多くの課題が顕在化しています。これらは、本市においても共通する課題であり、市民の健康を守るための保健医療体制を構築し、さらに再生医療など高度医療をいち早く患者に提供するため、行政だけでなく、市民、事業者、保健医療などの関係者が、それぞれの役割を果たすとともに、連携していくことが大切であると考えています。

また、がん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加するなか、生涯を通じて豊かで満足度の高い生活を送るためには、適切な生活習慣を身につけ、実践していくことや、それを支える社会環境の整備を進め、自分自身の健康状態をよく知り、一人ひとりが主体的に取り組むことが大切です。自らの健康を、自らで守るということは、至極当たり前のことであり、食生活、休養・睡眠、運動を生活の中のリズムや習慣として位置づけるとともに、自らの体調を知るために、健診や人間ドックを定期的に受診することが必要です。

市民アンケートの回答に、毎年定期的に健診を受けていない理由として、「心配な時は、いつでも医療機関を受診できるから」がトップを占めているということは、現在の医療費の急増を考えると論外の認識であると言わざるをえません。繰り返し申し上げたいのは、より良い生活習慣とともに、定期的に健診を受けられるようお奨めしたい。それは健康都市神戸を築く、大きな一歩になるからです。

このたび策定した「神戸市保健医療計画」は、こうした考えのもと、市民の健康と福祉の増進を図り、質が高く、効率的な保健医療提供体制の確立を目的としています。

また、「高度な医療技術の提供による市民の健康・福祉の向上」を目的の一つとしている神戸医療産業都市の取り組みも取り上げています。

今後は、この計画に基づき、増加し続ける生活習慣病や高齢化の進行などによる保健医療に対する需要、救急医療及び在宅医療など重要な課題に対応する保健医療体制の構築を進め、市民が安心して、良質な保健医療サービスが受けられるまちづくりを進めてまいります。

計画の策定にあたり、ご意見・ご協力を頂きました市民の皆様、策定委員を始め関係機関・団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

や だ たつ お
神戸市長 矢田 立 郎